

病気と信心

仏法では、人の苦しみには「生・老・病・死」の四苦があると説かれています。私達凡夫は、いつまでも健康でいたい、病気の苦しみは味わいたくないと願っています。しかし、この世に生を受け、死をむかえるまでには、どんなに健康を誇っていても、やがては誰人も病苦を受ける時を迎えるのであります。日蓮大聖人は『治病大小権実違目』に、

夫、人に二の病あり。一には身の病、所謂地大百一・水大百一・火大百一・風大百一、已上四百四病なり。此の病は設ひ仏に有らざれども之を治す。所謂治水・流水・耆婆・扁鵲等が方薬此を治するにいゆて愈えずという事なし。二には心の病、所謂三毒乃至八万四千の病なり。此の病は二天・三仙・六師等も治し難し (御書 1 2 3 5 頁)

と仰せであります。これは、人には身体の病として四百四病、また心の病として貪瞋癡の三毒を含め、八万四千もの病が存すると御教示であります。

これら病の起こる様々な原因と因縁について、日蓮大聖人は『摩訶止観』を引かれ、

病の起こる因縁を明かすに六有り。一には四大順ならざる故に病む、二には怨食節せざる故に病む、三には坐禅調はざる故に病む、四には鬼便りを得る、五には魔の所為、六には業の起こるが故に病む (御書 9 1 1 頁)

と仰せられています。一つ目の「四大順ならざる故に」とは、法界の万物及び人の身体を構成している地・水・火・風という四大のバランスが崩れ、異常を来すことを原因として健康を損ねることをいいます。二つ目の「飲食節せざる故に」とは、暴飲暴食や偏食など、不摂生な食生活が原因で病気になることでもあります。三つ目の「坐禅調はざる故に」とあるのは、心の不調和、精神面のバランスが崩れて、心身共に病んでいく病気をいいます。四つ目の「鬼便りを得る」とは、人の耳目では認識することのできない超人的なはたらきをもつ悪鬼から被る病をいい、肉眼では見ることのできない伝染病や災難・災厄をもたらすのがこの悪鬼とされております。五つ目の「魔の所為」とあるのは、魔は「殺者」「能奪命者」「障礙」「破壊」などと訳されているように、善根や生きる力、命を奪い、心の働きを妨げ、頭・神経の働きを破壊するところから起こる神経症や精神病等をいいます。六つ目の「業の起こるが故に」とは、業とは「行為」「振る舞い」という意味であり、過去遠々劫より現在に至るまでの身口意にわたる全ての行為の果報は、全て命に刻まれており、それらの原因により病が起こるとされております。

これらの病を治すために日蓮大聖人は『妙心尼御前御返事』に、

このやまひは仏の御はからひか。そのゆへは浄名経・涅槃経には病ある人、仏になるべきよしとかれて候。病によりて道心はおこり候か (御書 9 0 0 頁)

と御教示であります。私達は平穩無事な生活を送っている時は、自分を顧みることはありませんが、

大事が起きて初めて我に返ることができるのです。病苦になることは、我が身の過去の業を知り、御本尊への確信と信心修行を強固にして、成仏を遂げる為の御本尊のお計らいなのです。ですから、真剣にお題目を唱え信行に励み、罪障消滅してゆくことが肝要なのです。御法主日如上人猥下は、

真正面に苦樂を据えて、苦をば苦と悟り、樂をば樂と開く達観した境地に立ってこそ、一切を切り開くことができるのであります。(中略)すなわち、至心に題目を唱え、御本尊と境智冥合した時、それは確立されるのであります。その確立された強い自己は、現実の苦樂を共に無上の喜びとして、自受法樂することができるのであります。この自受法樂こそ、人間の真実の幸福境地であります。(信行要文4-58頁)

と御指南されております。御本尊への無疑曰信の信心修行により、病苦等の苦しみを受けとめ、乗り越え克服することができるのであります。

日蓮正宗の信心をしていながらも、「一生懸命頑張っているのに、なぜ病気になるんだろう」と、信心への疑いや不信をもったりすることがあるかもしれません。しかしこれは、過去の重い罪業が、今生の正しい信行により軽くなって現われ、罪業を消滅していく姿であり、今生に過去の業があらわれることは、かえって喜ぶべきであると御指南なのであります。また、日蓮大聖人は、

第六の業病最も治し難し。将又業病に軽有り重有り、多少定まらず。就中法華誹謗の業病最第一なり(御書912頁)

と御教示であり、六つ目の「業病」が最も治し難く特に法華経誹謗の罪業から起こる業病が最も重いと説かれているのであります。しかしこのような重い業病であっても『太田左衛門尉御返事』に、

法華経と申す御経は身心の諸病の良薬なり(御書1222頁)

と仰せのように、日蓮大聖人の説かれた文底下種の南無妙法蓮華経は、末法の衆生の業病をも治していくことができる大良薬なのであります。御隠尊日顕上人猥下は、

入信してお題目を唱え始めたら、病気が起こってきたという人が中にいますが、これは、過去において罪業があるのです。この業が、お題目を唱える功德によって軽く現れてきたわけです。将来、地獄に堕ちていたかもしれません。あるいは、餓鬼に堕ちる業を持っていたのです。それを今生において正法を受持することができた功德によって、要するに、今日軽い病気として現れてきているのであります。この病気が、信心によってきちんと治れば、過去の業をことごとく今生において、しかも正法の功德によって過去の業を謝すといえますか、打ち破ってこれを消し除くということになるわけでありませぬ。(大白法444号)

と御指南されております。

信心修行に励む中で、病苦のみならず、様々な苦しみや障魔が現われてきますが、御本尊に絶対の信をとり、真剣にお題目を唱え祈念し、折伏を行じていく時、その功德力によってそれらの罪障を消滅することができるのであります。